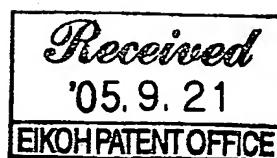


特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）
〔PCT36条及びPCT規則70〕



出願人又は代理人 の書類記号 P04818300	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/005089	国際出願日 (日.月.年) 08.04.2004	優先日 (日.月.年) 08.04.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ A23K1/08, 1/16, 1/18		
出願人 (氏名又は名称) 明治鉄工株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 7 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で ページである。

補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)

第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータベースを含む。 (実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第I欄 国際予備審査報告の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第IV欄 発明の單一性の欠如
 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 22.09.2004	国際予備審査報告を作成した日 07.09.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 松本 隆彦 電話番号 03-3581-1101 内線 3237
	2B 2914

第1欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

PCT規則12.4にいう国際公開

PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること） _____
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること） _____
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第II欄 優先権

1. この報告は、次の書類が所定の期間内に提出されなかつたので、優先権の主張がされなかつたものとして作成した。

優先権の主張の基礎となる先の出願の写し (PCT規則 66.7(a))

優先権の主張の基礎となる先の出願の翻訳文 (PCT規則 66.7(b))

2. この報告は、優先権の主張が無効であると認められるので、優先権の主張がされなかつたものとして作成した。
(PCT規則64.1)

したがつて、この報告においては、上記国際出願日を基準日とする

3. 追加の意見 (必要ならば)

優先権主張の基礎となる先の出願には、賦形剤を含有させること、及び、抗酸化力が増強されることは記載されていない。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-26	有
	請求の範囲	無
進歩性 (I S)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-26	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-26	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : J P 01-098446 A (明治乳業株式会社) 1989. 04.
17, 全文

文献2 : J P 3046303 B (明治乳業株式会社) 2000. 05. 29,
全文

文献3 : J P 62-104552 A (森永乳業株式会社) 1987. 05.
15, 全文

文献4 : J P 2003-253262 A (雪印乳業株式会社) 2003.
09. 10, 全文

文献5 : J P 2000-287626 A (株式会社ヤクルト本社) 2000.
10. 17, 全文

文献6 : J P 2002-335953 A (雪印乳業株式会社) 2002.
11. 26, 全文

請求の範囲 1-5, 8, 9, 12, 14, 16, 18, 20, 22-26について

文献1には、公知のラクトバチルス属の菌株の培養液を給与することで下痢防止、体重増加できることが開示されている。また、蛋白質加水分解ホエーを含む培地で中和培養を行うこと、濃縮物を得ること、子豚に給与すること、牛を対象とすることも開示されている。文献2には、Lactobacillus gasseri OLL 2716 (FERM BP-6999) 及び、乳酸菌培養液を凍結乾燥物にして用いることが開示されている。よって、上記請求の範囲に係る発明は、文献1と文献2に開示された事項から当業者が容易に想到しうるものであり、進歩性を有しない。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日.月.年)	出願日 (日.月.年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日.月.年)
JP 2004-189672 A 「E, X」	08.07.2004	11.12.2002	
JP 2003-253262 A 「P, X」	10.09.2003	28.02.2002	

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日.月.年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日.月.年)

第VII欄 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

明細書第10頁第3行の「第30463033号」は「第3046303号」の誤記である。また、請求の範囲10の「人口乳」は「人工乳」の誤記である。

補充欄

いづれかの欄の大きさが足りない場合

第 V. 2 欄の続き

請求の範囲 6, 7 について

文献 5 には、澱粉、脱脂乳等の賦形剤を添加することが開示されているので、上記請求の範囲に係る発明は、文献 1, 2, 5 に開示された事項から当業者が容易に想到しうるものであり、進歩性を有しない。

請求の範囲 10 について

文献 3 には、代用乳に乳酸菌培養残渣を添加して給与することが開示されているので、請求の範囲 10 に係る発明は、文献 1 ~ 3 に開示された事項から当業者が容易に想到しうるものであり、進歩性を有しない。

請求の範囲 11, 15, 19 について

文献 6 には、腸管内で生残性が高いラクトバチルス・ガセリが開示されているので、上記請求の範囲に係る発明は、文献 1, 2, 5, 6 に開示された事項から当業者が容易に想到しうるものであり、進歩性を有しない。

請求の範囲 13, 17, 21 について

文献 4 には、ラクトバチルス・ガセリの培養物に抗酸化効果があることが開示されているので、上記請求の範囲に係る発明は、文献 1, 2, 4, 5 に開示された事項から当業者が容易に想到しうるものであり、進歩性を有しない。